

家庭科男女必修世代の夫婦の家事 マネジメント感覚とゆるやかな連携で臨機応変に

生活者研究センター
ファブリック&ホームケア研究室

共働き世帯は引き続き増加傾向にあり、出産後も仕事を続ける女性が増えています。学校教育においても、平成5年以降、家庭科が中学校・高校ともに男女必修となり、現在の40歳以下(中学校・高校6年間の場合37歳以下)は「男女ともに、仕事も家庭も」という教育を受けてきました。本レポートでは、家庭科男女必修世代にあたる20～30代夫婦の暮らし方や家事スタイルについて報告します。

- 20～30代の夫婦では、夫の家事担当割合が上昇
- 家事を目指す暮らしのための「大切な仕事」ととらえる
- お互いが家事に関わりやすくなる3つのポイント
- 臨機応変な家事スタイルで、夫には「自信」、妻には「任せられる安心感」
- お互いを尊重し一緒に築いていくのも、これからの家事スタイルの一つ

【調査概要】

「生活者の暮らしに関わる意識と行動について」

調査期間：2006年9月

調査方法：インターネット調査

調査対象：首都圏在住20～30代既婚男性

回答者数：116人

調査期間：2016年9月

調査方法：インターネット調査

調査対象：首都圏在住20～50代既婚男性

回答者数：20～30代 196人、40～50代 439人

「家事の意識実態について」

調査期間：2017年4月

調査方法：インターネット調査

調査対象：首都圏在住DINKS、未子小学生以下の夫婦

対象者数：514世帯

調査期間：2016年11月、2017年6月

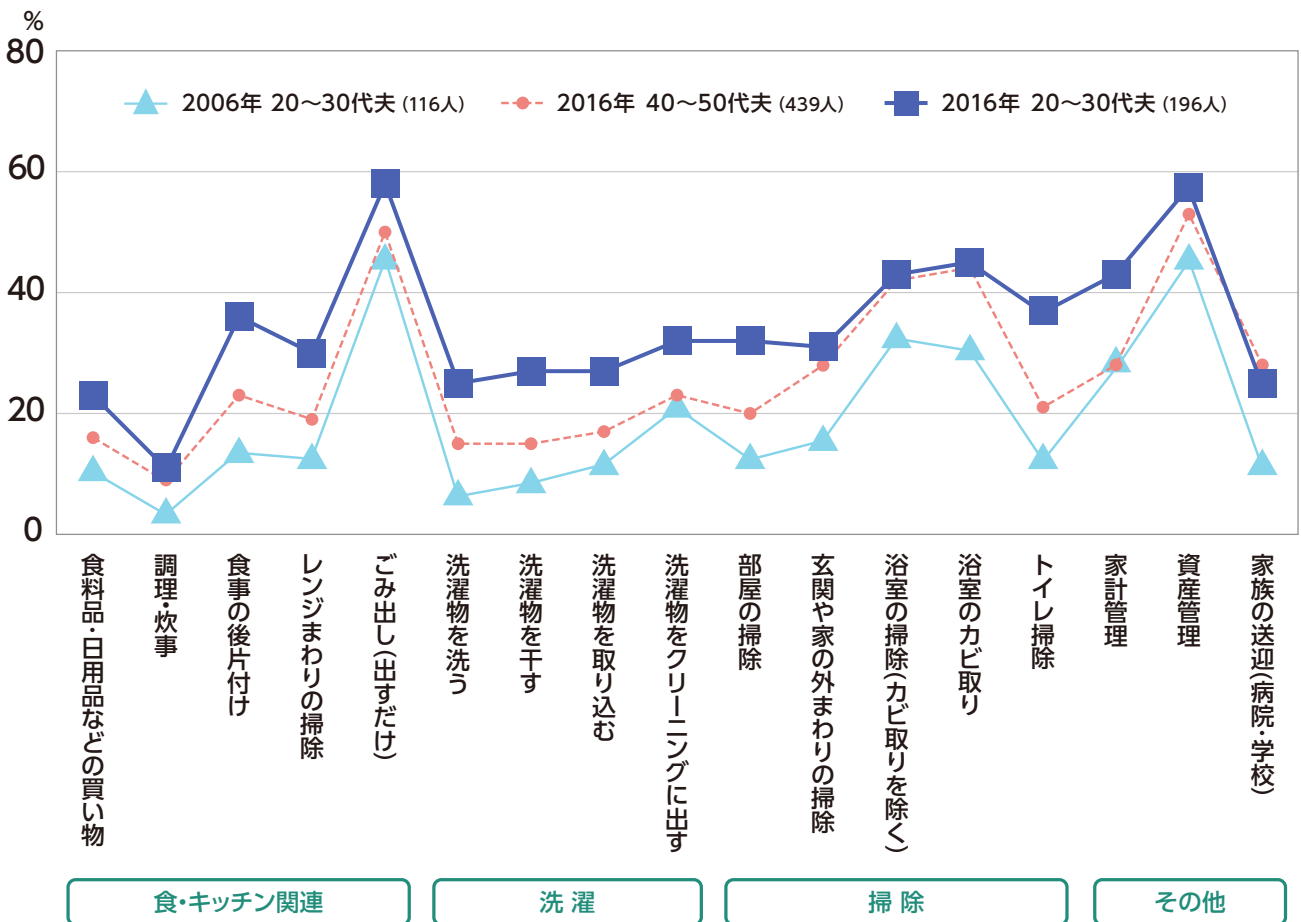
調査方法：家庭訪問調査

調査対象：首都圏在住20～30代 共働き子あり世帯

対象者数：10世帯

20～30代の夫婦では、 夫の家事担当割合が上昇

家事の担当状況をみてみると、2006年に首都圏の20～30代の夫が主に担当していた割合が高かったのは「ごみ出し」、「浴室掃除」、「資産・家計の管理」などでしたが、2016年には調査項目のすべてにおいて担当割合が上昇し、「洗濯」「掃除」全般にまで広がっています(図1)。2006年から2016年の10年間に15ポイント以上増加した、夫が主に担当している家事項目は、「トイレ掃除」(13%→37%)、「食事の後片付け」(14%→36%)、「部屋の掃除」(13%→32%)、「洗濯物を洗う」、「洗濯物を干す」、「洗濯物を取り込む」、「レンジ周りの掃除」、「玄関や家の外まわりの掃除」、「家計管理」と多岐にわたっています。



※「妻が主担当」「妻が主、自分が一部」「自分が主、妻が一部」「自分が主担当」「その家事をしない」の5択のうち、「自分が主担当」「自分が主、妻が一部」の計

(図1) 夫が主に担当している割合(家事別)

首都圏在住20～50代既婚男性 ※家事を平日も休日も全くしない既婚男性を除く
2006年9月、2016年9月(花王生活者研究センター調べ)

家事を目指す暮らしのための「大切な仕事」ととらえる

20～30代夫婦への家庭訪問インタビューから、彼らはまず自分たちがどう暮らしたいかを考え、家事はその暮らしを成立させるための「大切な仕事」ととらえていました。夫婦で目指す理想の生活スタイルのゴール(生活)を共有し、家事はお互いのやり方をすり合わせて最適な方法を選ぶなど、暮らしをマネジメントする感覚で家事にも取り組む様子がみられました。また、「家事は妻がやるべき」とは考えない人も多く、家事の明確な分担を決めず、できる方ができるときにおこない、手が空いているときは一緒におこなうという、さりげなくフォローし合う臨機応変なスタイルも目立ちました。担当にしばられて家事を押しつけ合ったり、できていないことにイライラすることも少なく、さらに夫婦が同じやり方でできるようにすり合わせができていたため、お互いの急な残業や夜勤などがあったとしても協力し合うことが可能になったようです。また、家事の負担を減らして心地よく暮らすという視点から便利な家電も積極的に利用していました。



どう暮らしたいか、目指すゴール(生活)を共有

がんばって疲れ切るよりも無理のない子育てがしたい。できるときにできることをやってあまり気にしない。
(28歳妻/教員/子あり)

ロボット掃除機や食洗機、家事の外注も使い、なるべく家事負担を減らす。
(30歳妻/会社員/子あり)

子どもの生活リズムを乱さず笑顔でいられる生活が理想。
(34歳妻/会社員/子あり)

夫も家事・育児に妻と同じように向き合う

洗濯のやり方を、夫婦で共有

夫婦とも同じやり方でできるようにし、途中から交代しても大丈夫なようにしている。(32歳夫)

<洗濯コース>
時間がない平日:スピードコース
時間があるとき:普通コース



<洗剤>
しっかり落としたい、部屋干しのとき:粉末洗剤
ワイシャツの汚れが目立ってきたとき:洗剤+部分洗い用洗剤
キシキシしない、柔らかさのため:柔軟剤を忘れずに使用

<干し方>
型くずれが心配な服は、ピンチではなくハンガーで干す

お互いに押しつけず、細く長く続ける

夫:お互いフルタイムで働いているし、家事をするのは当たり前。担当ではなく、思いやりです。できる方ができるときにというスタンスで押しつけない。



(29歳夫, 28歳妻)

妻:子どもが生まれて忙しくなったのは、私だけではない。夫と協力しながら、できるときにできることをする。細く長く続けられることが大事。

お互いが家事に関わりやすくなる3つのポイント

20～30代の夫婦が暮らしをマネジメントする意識から、自然と築かれていった臨機応変な家事スタイルには、合理的に家事の負担を減らすなど、夫婦それぞれが家事に関わりやすくなる3つのポイントがありました。

① 我が家スタイルを決めることで納得家事



漂白剤は、肌への刺激が強い気がするので、子ども服に使うのは心配。

妻 28歳／教員／子あり

赤ちゃんの服は食べこぼしも多いし、漂白剤を併用して、汚れやニオイをしっかりと落とした方が衛生的。



夫 29歳／会社員／子あり

妻:肌トラブルもないし、夫の言う通りかも。漂白剤を子どものものにも使ってしっかり落とそう。

② 家事の効率化・合理化のための投資

家事の絶対量(家事時間)を減らす

高機能家電(ロボット掃除機、食器洗い乾燥機)、家事代行サービス、日用品のネット定期便利用

ラグは洗う手間、保管場所を考え、季節ごとに買い替えることにした。



夫 36歳／会社員／子あり

手間を省く

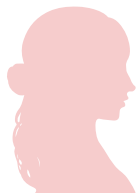
使い捨て
(メンテナンスフリー)



衛生を気にして漂白していた台ふきをやめて、使い捨てにできるキッチンダスターにした。

妻 32歳／会社員／子あり

③ モノを減らし管理の手間の削減



仕事から帰って家が汚いとどっと疲れる。できるだけモノがない状態にするとルンバも動きやすいし、心地よい。冷蔵庫のストックも最小限、洗剤は本体と詰替え1つ。誰が見ても、必要なものと、在庫量が分かりやすい。

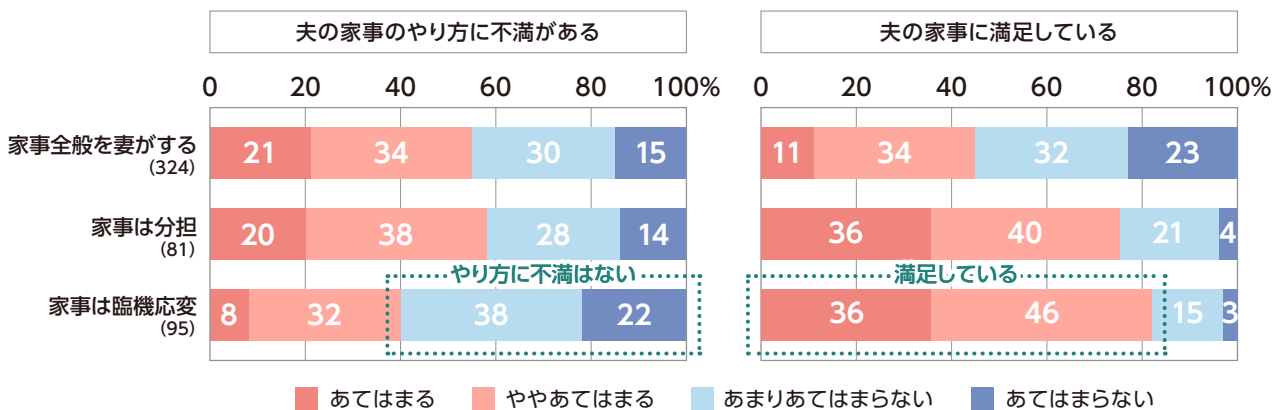
妻 34歳／施設職員／子あり



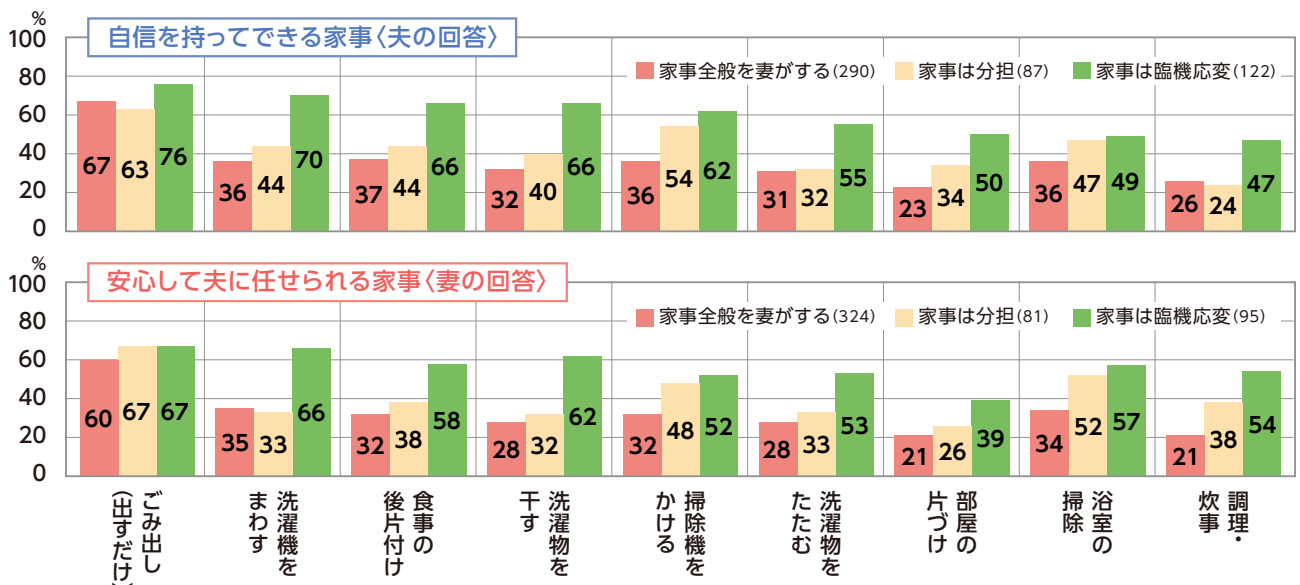
臨機応変な家事スタイルで、 夫には「自信」、妻には「任せられる安心感」

お互いにフォローし合い、夫婦それぞれが臨機応変に家事ができるようになることは、夫婦の気持ちにも良い影響を与えているようです。妻が「夫の家事のやり方に不満がある」割合は、家事全般を妻がする世帯では55%、家事分担する世帯が58%であるのに比べ、臨機応変にできる世帯では40%と低い傾向にありました。また、「夫の家事に満足している」割合は、家事全般を妻がする世帯が45%であるのに比べ、家事分担する世帯では76%、臨機応変にできる世帯では82%と高い傾向にありました(図2)。

家事を臨機応変にできる世帯では、家事全般を妻がする世帯、家事分担している世帯に比べ、多くの家事において、夫は自信を持って家事をおこなっている割合が高く、妻も安心して夫に家事を任せられると感じている割合も高いことがわかりました(図3)。



(図2) 夫の家事に対する妻の気持ち(家事シェアの状況別)



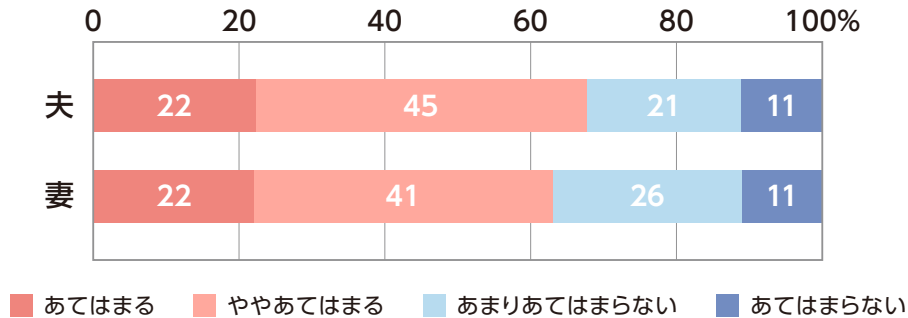
(図3) 夫が自信を持ってできる家事、妻が安心して夫に任せられると思う家事

「家事は妻がほとんどしている」、「家事は「分担」を決めている」「家事は明確な分担は決めずに「臨機応変」にできる方がしている」「家事は夫がほとんどしている」の4択から、最も近い状況を自己申告

首都圏在住のDINKS、末子小学生以下の夫婦
2017年4月(花王生活者研究センター調べ)

お互いを尊重し一緒に築いていくのも、 これからの家事スタイルの一つ

家事の知識やノウハウについて母親からの伝承が少なくなったといわれていますが、これからは夫婦それぞれの知識やノウハウを持ち寄り、自分たちの暮らし方に合わせて夫婦で一緒に作り上げていく家事スタイルへと移行していくのかもしれませんが、「家事を協力し合うことで夫婦のコミュニケーションが良くなった」と感じている割合は、夫、妻ともに6割以上を占めています(図4)。



首都圏在住のDINKS、末子小学生以下の夫婦
2017年4月(花王生活者研究センター調べ)

(図4)家事を協力することで夫婦のコミュニケーションが良くなった

家事に正解があるわけではありません。それぞれの家庭の事情に合わせたやり方を作り上げ、家事だけでなく子育てや家庭生活のあらゆる場面で、お互いを思いやり尊重しながら柔軟に対応していくのも、共働きが主流となった今どきの生活の一つのスタイルだと考えます。

●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究センター**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月～金 9:00～17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 <http://www.kao.co.jp/lifei/>

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。